

第36回東日本中学生ラグビーフットボール大会ラグビースクールの部

セカンドステージ／ファイナルマッチ ゲームレポート

全国ジュニアを懸けた、千葉県総合スポーツセンターの予選会場は、朝から雲が広がり肌寒さを感じるくらいであったが、第一試合が始まるころには、快晴となった。

1stステージを1位通過した北海道スクール選抜は、首都圏第2シードの東京都スクール選抜と、第2地区の新潟県スクール選抜とカップセミファイナルリーグBでの戦いとなった。



【セカンドステージ】

第1試合は新潟県選抜が、東京都選抜を22対17で接戦を制して勝利した。

そして12:30北海道は、東京との第2試合を迎えた。北海道のKOで開始されると東京は、エリアを獲るキックで北海道10mに攻め込む。北海道はラインアウトからBKへ展開し陣地を戻しに行くが、パスミスからターンオーバー、すかさずインゴールへキックされるが、これにしっかりと反応したFBが冷静にグランディングしピンチを救った。

そして開始から2分、このドロップアウトのボールをマイボールとし、自陣22mから果敢に攻め、FBにボールが渡るとタッチライン際を走り切り、左隅へ先制のトライを決めた。リスタートのKOを22m深くまで蹴り込まれキャッチングミス、さらには、インゴールノックオンにより相手に5mスクラムを与えてしまう。最後はラックサイドを破られトライ。ゴールも決まり逆転されてしまう。

今度はリスタートのKOで敵陣に攻め入るが、ここでもコントロールされたキックでエリアを戻されてしまう。互いにキックによるエリアマネジメントとプレッシャーのあるDFで得点が動かないまま中盤を迎えた。そしてウオーターブレイク直後の、ラインアウトから、東京は大きくBKへ展開し、ラックができるSHからボックスエリアへキックで攻め込み、ここで北海道は倒れ込みの反則。自陣22mのラインアウトからBKへ展開し、

中央でラックをつくると素早く逆サイドへパスを放ち、北海道のDFラインが揃わない右隅へトライ。
5-12となる。

ここから北海道のプレッシャーが無くなった。KOのボールを大きくゲインされると、またもハンドの反則。そしてキックによりエリアを獲られると、同じ形でトライ。そして終了間際にも追加点を許してしまい、前半を5-26で折り返す。

ハーフタイムでは、今までやってき自分たちのスタイルを再確認し後半に臨んだ。東京KOのボールを獲得し、ボールを広く動かし続け、自陣から徐々に攻め込み、最後は東京の固いゴール前のDFをこじ開けた。15フェイズを重ねた右中間へのノーホイットトライであった。ゴールも決まり12-26と追いつがる。このトライで勝利を引き寄せたい北海道であったが、ペナルティーキックのボールがノータッチになると、ここからカウンターで近場のフェイズを重ねられ、最後は大きく展開されてトライを許し、再び12-33と引き離されてしまう。そして終盤互いに1トライずつ追加して、最後は相手のドライブイングモールでトライを奪われ、ここでノーサイド。開始直後トライを決めるも、東京都選抜のプレッシャーのあるディフェンスの前に、優位に試合を進められず19-45で初戦を飾ることができなかった。



次の試合は一番大切な試合となった。東京戦ではプレッシャーのあるDFに阻まれ自分たちのプレーをすることができなかったが、気持ちを切り替え、しっかりと得失点差で勝利することを確認し、次の一戦に臨んだ。

第3試合は新潟県スクール選抜のKO、開始わずか1分自陣22m中央でノックンの反則をするとスクラムから右に展開され2つのタックルミスも重なりゴール隅に簡単にトライを許してしまう。開始早々先制されいやな流れとなったが、選手たちは円陣を組みここからスイッチが入った。



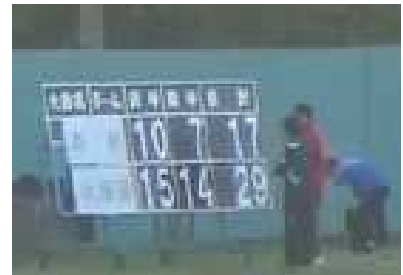
敵陣深く蹴り込んだリスタートのKOを相手WTBに蹴りかえされ、FBがカウンターアタックで22mまで攻め込むが惜しくもタッチを割ってしまう。その後、相手が蹴ったタッチキックでマイボールラインアウトとなり、しっかり組んだモールから左へ展開しFBがそのままトライ。5-5の同点に追いつく。

その後8分新潟県選抜にトライを奪われるが、ハーフウェイライン中央のスクラムからSOがパスダミーで裏にでるとインゴールへキックし、それに反応したWTBが押え右隅にトライ。互いに獲られては獲り返す展開となった。

そして終了間際、敵陣ゴール前でスクラムをもらった北海道選抜は、右へ、左へボールを動かし最後は、ラックサイドを突破しWTBがトライ。15-10と初めてリードし前半を折り返す。

後半に入り、ラックでの反則をもらおうとラインアウトモールで押し込みSHがサイドを抜け最後はCTBが飛び込みトライ。開始1分ゴールも成功し22-10とする。

そして互いに反則やミスで決定力のないまま硬直した状態が続いたが、北海道は連続して反則をしてしまいゴール前でドライビングモールを防ぎきれず、ついに11分トライを許してしまう。ゴールも決まり5点差まで詰め寄られる。その後16分、FW・BKが一体となりボールを繋ぐと、SHが密集のサイドすり抜け大きくゲインし、最後はLOが2人のタックルを外し、ゴール真下へトライを決める。ゴールも成功し29-17とする。



ランニングタイムでは残り1分、勝だけではダメだ！あと1トライが欲しい！

新潟県選手が接触による怪我でプレーが止まった。ロスタイムは2分、相手ボールのスクラムからプレーが再開し、自陣22mの苦しい時間が続くも集中力を切らさず、ブレイクダウンを制しターンオーバーに成功した。そしてボールを何度も繋ぎトライを奪いに行くが猛烈なDFに阻まれ前には出られない。しかし、ここでWTBにボールが渡り2人のDFをステップで突破し、敵陣深くゲインすると怒涛の攻撃で最後はFBにボールが渡り右隅へトライ。スコアは34-17。時計は20分半を過ぎていた。この結果、得失点で2位が確定し、明日へ望みを繋いだ。



【ファイナルマッチ】

2日目のカップ3位決定戦は、ここ3年連続で第3地区を1位通過している強豪の長野県選抜との対戦となった。北海道選抜のKOで始まると長野県選抜は、ボールを繋ぎ22mまで一気に迫るがノックン、北海道選抜はかろうじて救われた形となった。そして北海道選抜はスクラムをもらい地域を挽回しようとしたキックに、出足の良いDFにチャージされ、またもピンチを招く。ゴールを背負って必死のDFだが、最後は密集のサイドを突破されトライを許してしまう。0-5 わずか2分の失点である。

その後11分FWの縦への突進を止めきれずオフサイドの反則をしてしまうと、さらに前進を許してしまいまたも反則で2つ目のトライを許してしまう。ゴール成功0-12となる。ここでDFを修正し立て直したいところであったが、KOのボールをカウンターでゴール真下にノーホイッスルトライを与えてしまう。全てが長野県選抜のATに、ファーストタックルで止めることができず、攻撃の圧力の前に反則を繰り返し、0-24とリードされ前半を折り返す。



後半に入っても長野県選抜の縦へのATにゲイラインを越えられ防戦一方となると、立ち位置が全てオフサイドの反則を犯してしまう。3分、6分と立て続けに失点を重ね0-34でノーサイド。開始早々からの圧力のあるATに圧倒され最後まで主導権を奪えず、なにもできないままに終わってしまった。



カップ4位となった北海道は、第4代表決定戦に臨んだ。全国ジュニアの切符を手にするには、この試合の勝利が絶対条件となった。対戦相手は、トーナメントを勝ち進み、プレート優勝した、群馬県スクール選抜である。開始早々に試合は動いた。群馬県はKOのボールをBKへ展開するが、これをダブルタックルで奪いかえすと、すぐに外へ展開。ラックから素早く順目に引いたATラインは3対2となり開始30秒でトライを奪いゴールも成功する。そして3分に群馬県はリスタートのKOを獲得するとBKへ展開、SOからのキックを北海道CTBがチャージすると、これが自らの胸に入り大きくゲインする。敵陣10mへ入ったところで止められるが、群馬県は戻り切れずオフザゲートの反則、ここで北海道はPGを選択する。キックは惜しくも左へそれて不成功となるが、勝利にこだわった冷静な判断だったと評価したい。

直後のドロップアウトのボールを北海道FBがカウンター。ブレイクダウンから左へポイントをずらし、素早く逆目に展開。前が空いたところにFBが切り込み右中間にトライ。12-0と追加点が生まれた。



その後、自陣で反則。群馬県はPGを選択し3点を返されてしまう。一瞬の隙が得点につながる。ここまでの勝負は接戦が予想された。北海道は10分、自陣深く蹴られたボールをFBが蹴り戻すとこれをしっかりとWTBがチェイスしボールを獲得、ラックから素早く展開し走りこんできたLOが、2人のDFをかわし、50mを独走しゴール真下にトライを決める。ゴールも決まり19-3とリードを広げる。そして終了間際、敵陣22mのラックからキックパスのボールをインゴールで競り合いSOが右隅にトライ。24-3として前半を折り返す。

後半、風上に立った北海道は、キックでエリアをとり、敵陣でゲームを進めたいところであったが、ハンドリングエラーや、オフサイドの反則をしてしまいトライにつながらず、逆に自陣ゴール前まで戻されてしまった。ゴールラインを背負っての厳しい時間が続き、9分、ついにトライを許してしまい24-8となる。後半から群馬は選手を入れ替えていた。後半勝負の戦術なのか？そんな不安の中、後半12分やっと勝利を呼び込む追加点を奪った。マイボールスクラムからキックで敵陣22mに入ると、最後はSHが密集を抜け出しトライ。29-8とする。最後は群馬の猛攻が続きトライを奪われてしまうが、ここでノーサイド。最終スコアは29-13。歓喜に抱き合う選手たち。全国ジュニアの切符を手にした瞬間であった。





長野県との試合終了後は、選手たちの体力の消耗は大きかった。そして3試合を戦い、負傷も増えピンチの状態、更には勝たなければならないプレッシャーの中で、本当によくやってくれました。選手たちは試合ごとに経験値を積み上げ、次々と目標を達成してきました。念願の全国ジュニアでは、目指してきた最高の『ONE TEAM』で北海道旋風を巻き起こすと信じています。

最後に保護者の皆様、そしてコーチ、関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。次のステージでも、主役の選手たちが活躍できますようご協力のほどよろしく申し上げます。

2016年度 U15北海道スクール選抜
ヘッドコーチ 畠中 学